

MESSAGE

大会に寄せられたメッセージ

2018年9月1~2日

全学連第79回定期全国大会



星野文昭さん

高崎経済大学出身、徳島刑務所監、獄中44年
71年11・14沖縄返還協定批准阻止・渋谷暴動闘争戦士

全学連大会に結集した闘う学生の皆さん。

延命してきた資本主義・帝国主義は、三度目の世界大戦・核戦争によって全世界の労働者民衆を敵に回わそうとしています。全世界の労働者民衆の怒りと力を一つに団結・国際連帯・ゼネストの力で資本主義の世の中を終わらせ、労働者民衆が社会の主人公となる世界史の扉を開こう。

闘う青年労働者と共に、再び闘う学生がその先頭に立とう。資本の過剰資本化と不均等発展、大恐慌が、資本とその政府の生き残りをかけたブロック化と再分割戦によって二つの世界大戦を引き起こし、第一次大戦がロシア革命に転化したものの、第二次大戦の戦後革命がスターリン主義の裏切りによって敗北し、資本主義・帝国主義が延命しました。

そして今、米帝を基軸とした戦後体制が、戦後発展によって再び過剰資本を生み、74-75年恐慌によって新自由主義による団結の破壊と階級戦争・侵略戦争は、全世界に膨大な労働者階級を生み、搾取・収奪の強化・拡大によってついに巨大な過剰資本とそれによる大恐慌を生みました。それが今、三度目の戦争と革命の時代を引き寄せています。巨大な過剰資本にのたうつ資本とその政府が、労働者民衆の団結・労組の破壊をテコに、生産と社会から搾取・収奪をし尽くす、搾取・収奪地獄に労働者民衆を叩き込み、彼らの市場、資源、勢力圏をめぐる争いに労働者民衆を動員し、世界戦争・核戦争に叩き込もうとしています。

しかし、労働者民衆は、これまでの帝とスタとの闘いを通して労働者自身の自己解放＝人間解放を闘うことが、全人民を獲得し帝とスタを倒し、団結のうちに人間労働、人間的共同性を発展し、人間本来の社会を実現する世界革命の道を開いています。

社会を動かしている労働者・民衆に資本とその政府によって低賃金・長時間労働の強搾取と戦争が強られる我慢のならない現実、国境をこえ民族をこえ労働者民衆が一

つに団結し、国際連帯・ゼネストの戦いによって自国政府、全ての資本とその政府を倒し、団結のうちに人間労働、人間的共同性を奪い返して、誰れもが力を合わせ人間らしく生きられる本来の人間社会を実現していきましょう。

トランプと共に、1%のために99%の命を奪うほどの搾取を戦争によって争闘戦＝世界戦争の道を作り、腐敗を極める安倍を、全労働者民衆の怒りと一つに、社会を動かす労働者民衆が団結し闘えば世の中を変えられると呼びかける改憲・戦争阻止！大行進の大闘争で打倒し、搾取・戦争のない社会を開こう。

そのために、全ての労働者民衆の怒りと結び、職場に闘う労組を、学園に闘う自治会を、地域に闘う運動体をつくろう。

それと一体に、沖縄基地・戦争に反対し立ち上がり、無実なのに無期・44年投獄と闘って、団結の力でそれを打ち砕き共に誰れもが人間らしく生きられる社会を！と訴え闘う星野解放闘争が広く感動、共感、団結を作り出しています。その力で、再審闘争と更生保護委闘争を発展させ、星野解放をかちとりましょう。

私たちの労働者自己解放＝人間解放の根源的な力、情熱、実践力を解き放って、1%が99%に搾取と戦争、災厄と不幸しかもたらさない資本とその政府の世の中を変え、労働者民衆一人間が社会の主人公として本来の力を解き放つ世の中を共に開こう。

大坂正明さん

71年11・14渋谷暴動闘争戦士
殺人罪でっち上げで指名手配46年の上、2017年5月18日不当逮捕

現在の学生は、私とは最大で50歳の年齢差がありますので、孫の世代ということになります。私の世代が学生だった頃は、70年安保・沖縄闘争の真っ最中でしたから多くの学生が全学連に結集して闘っていました。したがって非常に闘いやすい環境があったと言えます。しかし、現在の学生は生まれ育った全ての過程が新自由主義の攻撃の下にあったため、人のつながりが断たれ、激しい競争にさらされてきたと思います。団結をさせないという攻撃のなかから、全学連に結集してきたことに深い敬意を表しつつ、世代を越えて固く団結して闘うエールを送りたいと思います。

情勢や路線については大会議案で提起されますからここでは触れません。私自身の闘いと、学生諸君への期待について述べます。

私は長く続くであろう獄中闘争を開始しました。あらゆる面で「星野さんのように闘おう」を指針にすべき立場にあるわけです。

全国代表者会議において大原さんは「星野さんのように闘おう」と言うとき、「相手の身になって考える」ということがまずあると提起しています。これを基本としなければ、青年労働者・学生の信頼と支持はかちとれないということです。この実践は簡単なことではありませんが、断固挑戦あるのみです。

そのうえで私にとっては「星野さんのように」という時には「不屈性」をあげる必要があります。学生の皆さんが日頃接している活動家の中にも長年不屈に闘ってきた人は数多くいるでしょう。そういう活動家たちももちろん称賛されてしかるべきですが。ただ星野さんの闘いは別格です。不屈性ということは、一度決意すれば、それだけでその後が保証されるわけではありません。人は何度も人生の岐路ともいべき決断を迫られる時があります。その都度闘う道を選択して、その積み重ねが不屈性を作り上げたということでしょう。星野さんにも闘う道を捨てたならば、すでに出獄できたであろう可能性がありました。しかし、その分岐点に立った時、常に闘う道を選択し、過酷な獄中闘争にとどまったのです。そうした不屈性は多くの人の感動をよび、同時に闘いの正義性も示しているのです。私もこのように闘う道を主体的に選択していくことが、「星野さんのように闘おう」の重要な柱だと考えています。

学生の皆さんはこれから先、私よりはるかに多くの人生の岐路に立つことになるでしょう。その時このような議論があったことを思い起こしていただきたいと願っています。

人間はどれほど過酷な状況にあろうとも、なんらかの希望を胸に抱いていれば、生きていけると言われます。私の希望はもちろん「この国に革命を」です。そしてその実現のために大きな期待を寄せるのは青年労働者・学生の闘いに他なりません。

未来社会は現在の若者が生きる社会です。だから若者が自らの手で作るべき社会なのです。資本主義は未来社会には何ら責任をとりません。「命より金」として戦争によってしか生き延びることができない資本主義を打ち倒し、この社会を根底から作り変える必要があります。当面は改憲阻止・戦争阻止の闘いです。そのためにも全国の大学に自治会の再建をなしとげ、闘う拠点を作ることが急務です。

私は獄中から学生諸君の闘いを、大きな期待をもって見守るとともに、それを励みとして私に課せられた闘いをいっそう強力に闘っていきたいと考えています。

固く団結し、共に闘い抜きましょう。

田中康宏さん

国鉄千葉動力車労働組合 執行委員長

第79回定期全国大会の開催を心よりお祝い申し上げます。

また、私どもの日頃のご支援・ご協力に厚く御礼申し上げます。

時代は戦後70余年を経て最大の転換点のときを迎えています。安倍政権は今秋の臨時国会に自民党改憲案の提出を目論み、「2020年新憲法施行」に向けて強引に突き進むようとしています。同時に「働き方改革」法を強行し、戦後労働法制を最終的に解体する道に踏み込みました。過労死の合法化、総非正規職化、解雇自由の「労働組合の存在しない社会」をつくらうとしています。

新自由主義政策が崩壊し、社会の総崩れがもたらされています。「選択と集中」、成長戦略は地方から鉄路を奪い、学校や病院など公共施設が次々と撤退、統合され、生活が成り立たないところまできているにも関わらず「生産性」のみを追求し、矛盾を一層拡大しようとしています。しかし、こうした現実と立ち向かう地方からの反撃も始まっています。

JRは、安倍政権の成長戦略の柱としての「働き方改革」の社会的モデルを先頭で担い、次元を越えた外注化の全面的な拡大、分社化-転籍攻撃、グループ会社の大再編へと踏み出そうとしています。運転士の仕事を解体する乗務員勤務制度の改悪を突破口に、安全をかなぐり捨てたワンマン化、自動運転へ向けて突き進んでいます。1047名解雇撤回闘争と一体で、労働運動の再生をかけて全力で闘いぬぎます。

改憲—戦争への動きが強まるなか、今こそ職場での資本との闘いを強めていかななくてはなりません。闘う労働運動の本格的発展こそが真に戦争をとめる力となります。と同時に、時代の未来を担う学生の決起こそが社会全体を揺るがす闘いの導火線となることを確信しています。私たちは、今回のJRの大攻撃に対して、断固としてストライキでたちあがる決意です。ともに闘いましょう。

また、11月労働者集会は、改憲・戦争阻止！大行進との共同で開催されます。ぜひ、全国学生の大結集をお願いいたします。

貴大会の大成功を心より祈念いたします。

石井 真一さん

国鉄水戸動力車労働組合 執行委員長

お疲れ様です。動労水戸から、全学連79回定期全国大会に結集した学生の仲間みなさんに、連帯のメッセージを送ります。

世界は今、第二次世界大戦後の秩序を根底から覆し、再び世界戦争に向かっています。今度の戦争は、間違いなく核戦争です。その情勢に安倍政権は、今秋から改憲に向けて全力をあげようとしています。再び戦争のできる国へと転換しようとしています。

それには労働組合の「産業報国会化」が不可欠です。安倍政権と結託するUAゼンセンは、9月定期大会で労働組合の側から憲法9条2項を削除して、自衛隊を明記するとしています。

JR東日本では、御用組合の東労組が2月スト通知をしたことを持って、全面的な解体攻撃をかけています。瞬く間に4万6千人の組合員が1万3千人になりました。今も解体攻撃は続いています。会社も大学も支配の構造は同じです。権力者に刃向かう者は絶対に許さない、徹底して不利益を与えるというものです。日大アメフト部の問題もそこにあると思います。

動労水戸は、結成以来その支配構造と闘ってきました。売店やそば屋に配転する、昇進試験には受からせない、運転士にはさせないなど、不当労働行為は違法行為とわかっていながら、会社は執拗にやり続けています。

しかし権力者はいくら頭を下げ、東労組のようにストライキ権を放棄して屈服を誓おうとも自分の都合で簡単に切り捨てるのです。日大アメフト部の内田監督のように、「反則行為をやれ」と言っているながら、問題になると「言っていない」と言って学生に責任を押し付けるのです。

私たちは、常磐線で主に働くJR労働者です。常磐線は、福島原発の横「富岡浪江」間につながっていません。そこは、年間50ミリシーベルト以上の汚染地域であり、乗客を乗せ電車を走らせるなどあってはならないことです。安倍政権とJR東日本は、それを2020年東京オリンピックまでに常磐線全線開通をさせようとしています。

広島原爆投下の日、8月6日に、福島県双葉郡双葉町の双葉駅を再度使用するために、着工式をやりました。安倍政権の福島県民とJR労働者に対する挑戦です。動労水戸は、原発事故以来他の労働組合が沈黙する中、被曝労働拒否を掲げてストライキ闘争を何度も闘ってきました。また今年初めから全国に常磐線全線開通反対の署名運動を呼びかけて、この問題を社会問題にしようと運動を展開しています。是非みなさんも協力をお願いします。

学生のみなさん！社会を変革するのは女性も含めた青年の力です。理不尽な事、不正義に怒り決起する青年の力はいつの時代も、社会を動かしてきました。なぜ沖縄に基地を作るのか、なぜ原発が爆発している地域に被曝しながら帰らなければならないのか、なぜ戦争をしなければならないのか、大学に立て看板を立てただけで弾圧されるのか、戦争に反対してなぜ退学なのか、そういう理不尽に対して闘おうではないか。

最期に、全学連大会の成功を祈念します。動労水戸は共に闘います。

北島邦彦さん

都政を革新する会

いよいよ改憲・戦争阻止決戦の正念場がやってきました。闘う学生のみなさんと固く団結して、私たちも全力で闘う決意です。「改憲・戦争阻止！大行進」運動の大々の発展を実現しましょう！

改憲を阻む闘いは、広範な労働者人民を巻き込みうる（巻き込まなければならない）闘いです。それはこれまでの私たちの闘いの形と質を問い直す闘いでもあります。学生のみなさんの柔軟で豊かな闘いを学びながら、みずからの変革をかけて行動したいと思います。

18-19-20年は「改憲・天皇・オリンピック」と、文字通りの階級決戦です。なかでも19年4月統一地方選7月参院選は、全人民を巻き込む闘いになります。このかん模索してきた革命的選挙闘争の真価をかけ、大胆な挑戦に打って出る好機ととらえています。若き青年・学生のエネルギーをともにして闘う決意です。必ずや勝利しましょう！

鈴木達夫さん

弁護士・国際連帯共同行動研究所所長

法大・京大の不屈の闘いのうえに「全学連の新たな時代」が生まれる。日本と世界のすべての人民が心底から歓迎している。

改憲阻止とは、未完の「戦後革命」を今度こそやり遂げること。日帝の断末魔の危機ゆえの大ばくちこそ、倒すチャンスだ。

飯田英貴さん

全国労働組合交流センター事務局長

全学連第79回大会の開催おめでとうございます。

安倍首相は8月12日、下関で講演し、「いつまでも議論だけを続けるわけにはいかない」として、自民党総裁選に「圧勝」し、改憲案を秋の臨時国会に提示することを表明しました。安倍の改憲と真っ向から闘うときが来ています。

また、自民党総裁選過程と軌を一にして、連合内最大の労働組合であるUAゼンセン（組合員172万人）の組合大会が9月19～20日に開催され、UAゼンセンの執行部は今大会で「9条2項を削除し、自衛隊を明記する」という「国の基本問題に関する方針」を決定しようとしています。改憲・戦争を止めるということは、かつて労働運動が解体され、産業報国会に再編された歴史を繰り返さないということです。全学連の皆さんはキャンパスから学生自治会を、私たちは、職場から闘う労働組合を甦らせることこそが最大の闘いです。

第二次世界大戦において日本帝国主義は、2000万人と言われるアジアの労働者、農民、女性、子どもたちを虐殺したのと同時に、生き残りのために自国民をも徹底的に犠牲にしました。310万人に及ぶ日本人犠牲者のその9割が1944年以降といわれています。敗戦必至となった絶望的抗戦期に入っても天皇をはじめとした支配者たちは、戦争終結を決断せず、多くの兵士と民間人が犠牲となったのです。その戦死の6割が病死・餓死であり、負傷し「使えなくなかった」兵士は「処置」という名で殺害されました。最後には成功率が6%にも満たない特攻に青年たちが駆り出されて殺されたのです。

一方で、戦争で兵士たちに無残な死を強制した天皇をはじめ軍の上層部は、その多くが戦後も責任を問われずに延命したのです。「上」に立つものは誰も責任をとらず、都合の悪いことは隠し、部下に対しては無謀な作戦遂行だけを命令する、このようなあり方は戦後の日本社会の中に、大学や企業や国家機構の中にそのまま継承されていませんか？ 私たちの改憲阻止闘争は、この社会のあり方を根本から変える闘いであり、その主体は今を生きる青年・学生です。

京大、東大の闘い、日大生の闘い、東京医科大に対する女性の決起は「使い捨ての労働力をつくり出す工場」として、兵器開発をも積極的に担うことで生き残ろうとする大学を根本的に変革する闘いの始まりです。全国労組交流センターもよりいっそう全学連との連帯を深め、改憲・戦争阻止の闘いを共に作り上げていきたいと思えます。当面する最大の闘いとして、11・4全国労働者総決起集会の1万人結集をともに闘いとりましょう。大会の成功を祈念致します。

日本IBMビジネスサービス労働組合

全学連大会の開催を心からお祝い申し上げます。

沖縄では改憲・戦争情勢が加速しています。翁長県知事が辺野古基地建設埋立承認撤回表明後の8/8に他界し、8/11には「辺野古新基地建設阻止」を訴えた県民大会に7万人が結集しています。翁長県知事の他界に伴い、9月下旬には県知事選挙が行われ、県知事選後には辺野古新基地建設の為の土砂投入が予定されています。併せて、県民投票条例施行に伴う署名集めでは最終的には10万筆を超える圧倒的な署名が寄せられています。

その上で重要な事はオール沖縄としては”これ以上の闘いは出来ない”という事です。沖縄の各地から「基地建設反対・阻止」という圧倒的な声上がりながら、闘う方針を持つ指導部が存在しない事が一番の課題なのです。

私たちは雨の降りしきる8/11の県民大会に登場し、「沖縄闘争の新たな方針は辺野古新基地建設を阻止し、星野文昭さんを取り戻すゼネスト以外にない」と訴えました。驚いたのは去年とは圧倒的に雰囲気が変わり、多くの人々が「ゼネストのピラ下さい」「3部くれ」「一緒にゼネストやろう」という声次々に上がった事です。改憲・戦争情勢の中で沖縄はいま、圧倒的にゼネストに向かっています。

全学連の皆さん、私たち・IJBS労組は「働き方改革」の一環で総非正規化攻撃の激しい攻撃を受けています。600万人もの労働者を首切り対象とした戦後最大の攻撃です。私たちは富田晋委員長に対する卑劣・不当な解雇に対して、解雇撤回闘争を継続しています。

会社側は「労働組合壊滅」を狙い、業務とは全く関係のない『試験』を導入しました。この試験で労働組合を排除する攻撃でした。私たちはこの解雇攻撃に対し、委員長を先頭にストライキで闘いました。その結果、富田委員長は解雇されるという許し難い状況です。しかし、経営側は他の事業所で100名規模の解雇を断行するも、富田委員長の事業所のみ富田委員長以外誰一人として解雇出来ない状況を強制しました。ストライキによって決定的な勝利が切り拓かれています。現在は職場内外での闘争を継続しつつ、解雇撤回闘争の労働委員会の準備をしています。

富田委員長は「僕は600万人がが解雇対象とされる戦後最大の総非正規化・改憲と戦争攻撃に対して、労働者の団結が必要だと考えた。団結さえあれば必ず勝利出来る。それを絶対的に信頼するからこそ、ストライキに入る。だから決して自己犠牲的精神だけで闘ったわけではない。ここでストライキが打ちぬかれた事実は全ての労働者の記憶に刻まれる。それは労働者が絶対に勝利する時代を切り拓く事を意味している。だからここで負けてはならない。勝利を確信するからこそ、全ての労働者の未来の為に闘う」と語っています。

現代は資本主義が崩壊する過程にあり、大不況・総非正規化と戦争・改憲の時代に突入しています。しかし、これは資本家そのものが力を失ったという事であり、労働者・学生にとってはむしろ絶好のチャンスと言えます。

日本大学の問題で突き出された事は資本主義社会の命脈が尽きたという事と戦争での学徒動員に向けた教育の破壊です。だからこそ、この時代に労働者・学生は自らが生きられる社会を切り拓かなければいけません。それを実現する場合に必要な事は「闘う労働組合・学生自治会の再生」とそれと同時に「ゼネラルストライキ」を全国で実現する事です。その為に全学連の皆さんが置かれている立場は歴史的にも重要です。全学生のストライキは全国の労働者に影響をおよぼし、戦争・新基地建設を阻止し、社会変革のゼネストをけん引するものです。

私たちは皆さんに任せようなどと一ミリも考えていません。私たちは沖縄で戦争・改憲を阻止し、新たな国際社会を作る為にゼネストで闘う決意です。皆さんと私たちは一体です。共に最後まで闘いましょう。

久原正子さん

全国水平同盟 委員長

全学連第79回定期大会おめでとうございます。

時代は今、戦争か革命かの歴史的岐路に立っています。このとき、本大会の大成功を通して、60年、70年を超える全学連の登場に、私たちは、心から歓声を上げ、ともに隊列を一つにして、改憲・戦争阻止決戦の先頭で闘いたいと思います。

米中貿易戦争は世界戦争の導火線となりつつあり、すでに中東では戦争が勃発しています。朝鮮戦争の危機も米朝会談で戦争がなくなったのではなく、いっそう戦争的危機を深めています。

何よりも世界の帝国主義の最弱の環であり、もう一人の戦争放火者である安倍政権は、森友疑獄、加計疑獄を開き直り、一切の延命の道を改憲・戦争に求め、9月臨時国会で改憲発議を行おうとしています。しかし安倍政権の凶暴さは、労働者階級人民の総反乱・総決起に対する恐怖の表れに他なりません。豪雨災害も決して天災ではなく、「命よりも金儲け」の安倍政権による人災です。安倍に対する怒りは、全国の大学で、職場で、地域で、充ち満ちています。労働者学生の総決起で安倍政権を打倒しよう。

いつの時代も青年が歴史を切り開きます。まさに「社会の腐敗に立ち向かう」若き全学連の登場が待ったなしに求められています。大会を通して、全学連が、すでに始まって

三浦正子さん

婦人民主クラブ全国協議会 代表

全学連大会の開催おめでとうございます。資本主義・新自由主義の最末期、世界の支配者ども、特にトランプや安倍が戦争・核戦争に突き進もうとしています。この9月にも安倍首相は三選して改憲発議をと叫んでいます。青年・学生を戦場に送るなど断じて許せません。

京都大学をはじめ、キャンパスにタテカンも許さない、軍事研究に走るなどは、大学の死です。全学連の皆さんが全国から闘いをもって集まり、徹底議論して足元から仲間を増やして立ってくれることを心から望んでいます。

私たち婦人民主クラブ全国協議会もさる8月25-26日に第35回全国総会を開催しました。全国の仲間たちが集まって、職場・地域で、改憲・戦争阻止！の進行をどうやって広げていくか、お互いの経験や教訓を大議論しました。「戦争は別の形での政治の継続」とあるように、すでに、私たちの労働と生活は破壊されています。医療も福祉も、保育も、教育も。そこで分断を超えて人間らしいあり方、共同性を取り戻すことと、改憲・戦争絶対反対は一つのことです。

自衛の戦争賛成などと言って労働者民衆を裏切る連中ときっぱり対決していこう！労働者民衆に国境はいらない！国際連帯で戦争止めよう！私たちも「戦争は命かけても阻むべし、母・祖母・おみな牢に満つるとも」の思いで頑張ります。

弾圧を打ち破り、大会が成功しますよう、心から祈念します。

いる改憲決戦の先頭に立ち、労働者階級の全命運を引き受けて闘うことを決意して登場することに、私たちは心から連帯の拍手を送り、団結を固め、ともに闘っていきたいと思います。学生運動・労働運動の力で改憲を粉碎し、戦争をやってしか生きられない帝国主義を打倒し、プロレタリア革命をたぐりよせましょう。

私たち全国水平同盟は、7月15日、第7回大会を勝ち取りました。私たちは、全国の部落でかけられている民営化・更地化、解雇、総非正規職化、生活破壊が、労働者階級全体にかけられた攻撃であり、戦争と改憲攻撃そのものとしてとらえ、改憲・戦争阻止決戦の先頭で闘うことを宣言しました。なによりもこの改憲阻止決戦の中で、狭山闘争と星野闘争を一体で闘い、勝利を勝ち取るために総決起します。民営化の受け皿となり、改憲の手先となって腐敗と敵対を深める既成解放運動を踏み超えて、全国に水平同盟の旗を打ち立てていきます。この闘いに共に立ち上がることを訴えます。

八尾・西郡では、8月18日に、八尾北医療センター労働組合を軸に「つながって改憲・戦争をとめよう」と呼びかけた八尾北夏まつりを開催し、去年以上の盛り上がりを切りひらきました。労働組合を軸に、絶対反対の旗を掲げて闘えば、団結を拡大し、必ず労働者人民の総決起が勝ち取れることを確信しました。

改憲・戦争阻止、大進行運動の大爆発を切り開きましょう。

貴大会の大成功を心から祈念します。